

令和元年度 学校評価計画に対する最終評価報告書								石川県立金沢伏見高等学校		
重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	集計結果（前期）	集計結果（後期）	成果と課題及び改善策	判定基準	備考
1より高い目標に挑戦する生徒を育成するとともに、その目標実現のために生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。	①ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が将来を見据えてより高い進路目標を設定できるようにするとともに、生徒の進路実現に向けて、全校職員でサポートする体制を整える。	進路指導課 各学年	年間を通して面談を実施しているが、進路希望が明確になるまでに時間のかかる生徒が多い。一人ひとりの生徒の適性や能力をふまへ、適切な目標設定と将来の進路について考えるための情報を提供する必要がある。	【満足度指標】 各種ガイダンスや面談指導によって志望する進路先が具体的に示せるようになった生徒の割合が90％以上である。	担任との個人面談や進路ガイダンスにより、志望する進路先を明確にすることができた生徒の割合が A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	達成度B 7月学校評価（生徒） 1年 88.1％ 2年 76.5％ 3年 83.9％ 全体 82.9％	達成度B 12月学校評価（生徒） 1年 82.6％ 2年 87.0％ 3年 80.7％ 全体 83.6％	進路希望調査や模擬試験等の結果を返却する際に行っている年間通した個人面談や学年別の進路ガイダンス等の実施により、進路先を具体化できた生徒の割合が全学年で80％を超えた。 また、個人面談により具体的に進路関係の話し合いが促進できるポートフォリオ等の積極的な活用を図るとともに、進路指導に関する指針や資料を担当と生徒に共有していききたい。	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や連携づけ方を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	②地元で活躍できる人材の育成を図るため、地元県内大学を第一志望とする生徒と保護者に対し、年度当初より進路説明会を実施し、合格に向けた個別の取り組み（平日補習、土曜補習等）を行う。	教務課 各学年	県内大学を受験する生徒が多い。県内大学が難化傾向にあり、本校生徒の合格率に伸びが見られない。目標達成に向けた具体的な数値目標を提示することで、努力を続けるための意欲をサポートする必要がある。	【成果指標】 地元大学の第一志望の進路の合格率を高めるとともに、国公立大学志望者がねばり強く取り組めたか重視する。	地元大学の第一志望の上級学校等に合格・内定した生徒の合格率と、 （地元大学） A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 9月時点で国公立大学を志望した生徒のうち推薦一般入試を受験した生徒の割合が （国公立大学の志望） A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満		達成度C・B 地元大学第一志望合格率 C：64.8％ 地元上級学校第一志望合格率 B：78.1％	達成度C・B 国公立受験割合 64.3％	県内の短大・専門学校を志望していた生徒は全員その志望を叶えたが、県内の私立4年制大学・看護専門学校を志望していた生徒の中で約1/3の生徒が第1志望に合格できなかった。大学の二極化が進み、人気校は難化する傾向にある。また、国公立を志望していた生徒の中で、約1/3が模擬試験やセンター試験の得点が振るわず国公立をあきらめ、私立大学に鞍替った。 次年度は、生徒との面談週間を4月と9月に設定し、模擬試験等の結果を踏まえてより適切な志望校の設定と、その入試に向けた対策の充実に努めていく。	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。
2教職員自らが資質向上に励み、不断の授業改善により生徒の学習意欲を高め自ら進んで学ぶ態度を育成する。	①不断的授業改善の実現に向けて、異年齢・異教科のメンバーで構成したグループ研修を実施することにより教員の資質を向上させ、生徒の学習意欲向上を図る。	教務課 各教科	前年度は年間4回のグループ研修とまとめの全体研修を行うことで、授業改善に向けた教員間の意識は揃いつつある。教員が自信を持ち方向性の揃った指導を行うことで、生徒の学習意欲の向上に繋げている。	【努力指標】 生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れている	（生徒）本校の教員は、生徒が主体的に学習できる授業を行っていると思う生徒の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満 （教員）生徒の学びが主体的・対話的で深いものとなるような授業手法を取り入れていると思う教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	達成度A 7月（生徒） 1年 87.1％ 2年 83.5％ 3年 84.8％ 全体 85.2％	達成度B 12月（生徒） 1年 75.0％ 2年 80.3％ 3年 82.7％ 全体 79.3％	（全体）75％以上が肯定的にとらえているが、生徒、教員とも前期よりやや評価を下げた。 生徒と教員の双方向の授業が定着せずに従来の一方的な学習スタイルに戻りつつあるため、授業に対する生徒のモチベーションの低下を招いている。 （生徒）家庭学習に取り組める生徒が増加しているが、緊張感や学習意欲に欠ける生徒に対しては、自己実現に向けて夢や目標を明確にして取り組む姿勢を指導する必要がある。 （教員）授業手法は令和4年度から施行の学習指導要領に沿って試行錯誤している段階である。よい事例の紹介や教科会の授業研究等により、さらに主体的・対話的な授業になるよう取り組んでいきたい。	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。	7月と12月に授業評価（生徒）、学校評価（教員）で調査する。
	②低学年からの進路指導を意識したり、学習時間調査や面談を活かし、生徒が見通しを得て家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の定着を図る。	教務課 各学年 各教科	低学年からの学習習慣が身についておらず、考査前、考査中の学習量も十分な量とは言えない。特に1年次の家庭学習量が少ない。計画的かつ継続的な学習習慣の定着が課題である。	【成果指標】 自ら継続的に家庭学習に取り組むことを重視する。2学期以上に家庭学習している生徒の割合が60％以上である。	1日平均2時間以上、家庭で学習している生徒の割合が A：70％以上 1年 42.8％ 49.8％ 2年 60.7％ 58.3％ 3年 67.1％ 73.8％ 全体 56.4％ 60.2％	達成率 1学期 中間 期末 1年 42.8％ 49.8％ 2年 60.7％ 58.3％ 3年 70.6％ 68.6％ 全体 56.4％ 60.2％	達成度B 2学期 中間 期末 1年 58.6％ 60.4％ 2年 62.2％ 78.7％ 3年 70.6％ 68.6％ 全体 63.5％ 69.2％	生徒との個人面談の充実や学習時間調査の徹底とフィードバック、考査問題と授業や家庭学習の関連づけなどにより、1・2年生では家庭学習時間が増えたと、まだ一部の生徒が家庭学習習慣が身につけていない。 3月以降の学習習慣の定着が新年度につながられるように、生徒面談ではねらいを持って進路に対する意識を高め、家庭学習の充実や学力定着を図っていきたい。	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	年5回、定期考査前に家庭学習時間調査を実施する。
3教職員が自らの勤務状況を直直し、業務改善することにより、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保する。	①教職員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、分掌業務の効率化を図ることにより、勤務時間外の分掌業務を削減する。	副校長 各課・学年主任	昨年度、教職員の時間外勤務月平均44.2時間、月あたり80～100時間は平均3.9人、100時間超は1.3人であり、これまでの働き方を見直すよう努めている。	【努力指標】 全教員が業務の効率化やタイムマネジメントの意識を高める。	（全教員）業務の効率化やタイムマネジメントの意識が高まったと考えた教員の割合が A：80％以上 B：70％以上 C：60％以上 D：60％未満	達成度C 7月学校評価（教員） 60.7％	達成度C 12月学校評価（教員） 66.6％	今年度4月～1月、本校教員の時間外勤務は月平均44.6時間であり、昨年度の同時期と比較して7.2時間増えているが、時間外勤務が月80時間を超える教員は1ヶ月平均4.3人で1.2人減少しており、業務の標準化につながっている。留守番電話の設定をはじめ、部活動では積極的に外部指導者の活用、効率的な会議時間の設定などに取り組み少しずつ改善が図られている。	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
	②各課・学年主任は業務分担の明確化、業務の仕分け等により業務の効率化、タイムマネジメントについて改善の意識が高まっていることや、業務の進捗状況を確認しよう場の設定など、業務のねらいを明確にした上で、取り組む必要がある。 次年度以降にはとも職員全体の業務の効率化を目指して、会議時間や教員の在校時間の短縮などに努めていきたい。	各課・学年主任	各課・学年主任（主任を務める校務分掌において、業務の割り振りや効率化を図ることについて、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	【努力指標】 各課・学年主任が業務の効率化やタイムマネジメントに積極的に取り組んでいる。	（各課・学年主任）主任を務める校務分掌において、業務の割り振りや効率化を図ることについて、 A：積極的に取り組んでいる。 B：取り組んでいる。 C：あまり取り組んでいない。 D：取り組んでいない。	7月学校評価 （各課長6・学年主任3） 89％ （内訳A+B:9人中8人）	12月学校評価 （各課長6・学年主任3） 89％ （内訳A+B:9人中8人）			A、Bが80％未満の場合、次年度の取組を再検討する。
4規律ある安心できる学校生活の中であらゆる教育活動を通して、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	①基本的な生活習慣の確立を図るため、遅刻を防止し、時間を守る指導を徹底する。	生徒課 各学年	昨年度の遅刻の延べ人数が前年比で33％減少した。大幅な減少ではあるが、時間を守るという意識をさらに高める必要がある。	【成果指標】 遅刻の延べ人数が昨年度の50％未満とする。	遅刻の延べ人数が30年度と比較して A：40％未満 B：50％未満 C：60％未満 D：60％以上	達成度D 4/8～7/19（6・9日間） 150％	達成度D 9/3～12/23（7・5日間） 108％	例年、遅刻者数が大幅に増加する9月は遅刻防止キャンペーンを行った効果もあり、前年度と比較して15％の遅刻者減となったが、10月以降は徐々に遅刻者数が増加し、最終的に2学期は前年度比8％増となった。 キャンペーンを行った日は遅刻者数が減少するので、来年度は遅刻に関する意識が薄れてきたタイミングで2学期（11月間）にもう一度実施し、3学期には3年生の進路決定などによる気のゆるみから遅刻者数が増加するため、3年生のみの遅刻防止キャンペーンなどに取り組みたい。	C、Dの場合、遅刻が常態化している生徒に対して、保護者及び外部機関等と協力して改善策を検討する。	毎日記録し、月ごとの集計により推移を注視する。
	②自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。	生徒課 教務課 各部活動	昨年度は自ら進んで挨拶のできる生徒の割合が84％であったが挨拶できない生徒もおり、挨拶が定着できるよう指導する必要がある。	【成果指標】 生徒が自ら進んで挨拶ができる。	自ら進んで挨拶のできる生徒の割合が A：90％以上 B：85％以上 C：80％以上 D：80％未満	達成度D 7月学校評価（生徒） 1年 75.2％ 2年 72.7％ 3年 79.5％ 全体 75.8％	達成度D 12月学校評価（生徒） 1年 71.8％ 2年 75.9％ 3年 82.7％ 全体 76.7％	昨年度からの指導の効果により2・3年生は後期には大幅に意識の向上が見られたが、1年生は学校に対する「慣れ」が徐々に現はれはじめ、自発的に挨拶をする意識の低下が見られた。 このことは挨拶だけでなく、服装の乱れ、欠席や遅刻の増加など様々なところに現れ、緊張感をもって学校生活を送る必要がある。 来年度は4月から全ての職員が協力して、玄関で登校指導を行うとともに挨拶、服装等の指導を徹底したい。	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	③いじめ防止に関する講話や教員対象の研修会などにより、生徒・教員ともいじめに関する認識の向上を図り、いじめの起こらない雰囲気をつくる。	生徒課 保健相談課 各学年	「いじめは必ずある」という認識のもと、実態の把握に努め、個々の事案について、組織的かつ迅速に対応する。	【成果指標】 いじめを見逃さない学校づくりにより組織的に取り組んでいる。	本校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、いじめやネットトラブルの未然防止に学校全体で組織的に取り組んでいると回答する教職員の割合が A：100％ B：90％以上 C：80％以上 D：80％未満	達成度B 7月学校評価（教員） 91％	達成度B 12月学校評価（教員） 93％	いじめアンケートで生徒本人からのいじめの訴えや目撃情報があり、本校としてはいじめに対する意識が高まっていることとされている。教員の「いじめを絶対に許さない」姿勢が生徒にも浸透しつつあることや、生徒の中にもいじめを許さない気持ちが現れた点も成果である。 今後とも保護者を含め学校全体として、SNSなどネット上のいじめにおいて「いじめ根絶」の雰囲気を作っていきたい。	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（教員）で調査する。
	④学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高め、実践する。	保健相談課 生徒課 各学年	清掃への取り組みやごみの分別など、環境保全に対する生徒の自己評価は高いが、ごみ出しマナーや学習環境の整備をさらに向上させる必要がある。	【成果指標】 ゴミの分別、教室やトイレの清掃が正しくなっている。	ゴミの分別、教室やトイレの清掃、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：90％以上 B：85％以上 C：80％以上 D：80％未満	達成度C 7月学校評価（生徒） 1年 81.3％ 2年 83.0％ 3年 88.5％ 全体 84.2％	達成度B 12月学校評価（生徒） 1年 82.9％ 2年 85.2％ 3年 91.4％ 全体 86.4％	全学年とも環境保全に取り組む生徒の意識が向上した。 美化委員会やクリーンアップ運動やごみ捨てマナーの呼びかけも意識の向上につながったと思われるが、ペットボトルの放置や分別しないでゴミを捨てたり、消灯が徹底しないという状況も一部で見られる現状である。 毎日の清掃を丁寧に行うことを基本にし、ゴミ捨てマナー、ごまぬ消灯など、環境を意識した行動が自発的にできるよう、引き続き生徒に働きかけていきたい。	C、Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。
	⑤部活動の加入率を高めて、学校全体の活性化を図る。また、生徒のバウンスのとれた生活や成長に配慮しながら、部活動が適切に行われているか検証する。	生徒課 各学年 各部活動	昨年度の全体（1～3年）の部活動加入率は80％である。多くの生徒が「部活動が学校生活を活力あるものになっている」と回答しており、生徒が部活動を通して学校生活の充実を図っていると思われる。	【成果指標】 部活動に登録した生徒が全体の85％以上である。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒の A：90％以上 B：85％以上 C：80％以上 D：80％未満	達成度D 5月部活動加入率（％） 運動部 文化部 計 1年 46.1 45.3 91.4 2年 39.1 35.1 74.3 3年 41.9 26.6 68.5 全体 42.4 35.8 78.3	達成度C 10月部活動加入率（％） 運動部 文化部 計 1年 45.0 40.4 91.8 2年 36.9 26.9 71.0 全体 41.0 33.7 81.4	3年生が活動を引退して、1・2年生主体の新体制となったことと、1年生の加入率が高いことで、全体の加入率が後期は上昇している。 年度初めに行われる新入生歓迎会での部紹介や、後期に設定した部活動再入部期間など、年間を通した働きかけが重要である。 年度当初に部活動の良さを知ってもらうための体験入部の取り組み方を工夫して、生徒が参加しやすい雰囲気を作りながら加入率を高めていきたい。	C、Dの場合、各部活動の活動内容や記録等を周知するとともに高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。	5月と10月に部加入率の調査を実施する。
【満足度指標】 部活動が学校生活を活力あるものにしていてと考えている生徒が加入者の80％以上である。		部活動が学校生活を活力あるものにしていてと考えている生徒が加入者の A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	達成度C 7月学校評価（生徒） 70.1％	達成度C 12月学校評価（生徒） 74.9％	部活動休業日の実施により、以前より学校生活における部活動の時間は短くなっているが、部活動による学校生活の充実を図るため、外部指導者による専門的な知識や技術に基づく指導を積極的に取り入れるなど、活動の内容を生徒、指導者等と工夫していくことが重要である。活動の目標等を明確にしながら、活性化に取り組んでいきたい。	C、Dの場合、各部活動の活動時間や内容等を検討する。	7月と12月に学校評価（生徒）で調査する。			
5学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	①ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に参加する意識を一層高める。	生徒課 各学年 各部活動	地域から信頼される学校づくりを目指して社会に貢献できるボランティア活動の参加を促している。昨年度、ボランティア活動の参加延べ人数は、悪天候による中止などで前年を下回ったが、部活動単位で積極的な参加が見られた。	【成果指標】 ボランティア活動が学校生活の充実につながることを回答する生徒が参加生徒の80％以上である。	ボランティア活動が学校生活の充実につながることを回答する生徒が参加生徒の A：90％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	達成度A 5月調査 つながる 54％ まあつながる 42％ あまつながらない 1％ つながらない 3％	達成度A 10月調査 つながる 55％ まあつながる 35％ あまつながらない 8％ つながらない 2％	ボランティア活動に積極的に参加したいと考えている生徒は多く、主に部活動単位で参加している。今年度は、地元の米泉連合町会と書かせボランティア協定の締結や交通安全ポスターの作成・掲示するなど、新しい取り組みを行っている。今後とも地域の課題を共有し、ボランティアを通した社会への参加、貢献を目指して取り組んでいきたい。	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	ボランティア活動後に参加生徒を対象に調査する。
	②学校ホームページをより閲覧しやすいように工夫し、保護者や地域、中学生やその保護者等への情報提供を一層充実させる。緊急連絡は、ホームページでも発信できるようにする。	副校長 総務課 図書・情報課	各課、学年及び部活動からの積極的な情報発信と内容の更新により、閲覧数は増加しているが更新の少ない項目があり、各分掌等で定期的な更新を必要とする。緊急連絡は、メールでは配信し、ホームページでも発信できるようにする。	【満足度指標】 学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が A：80％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく知ることができると回答した保護者等の割合が A：80％以上 B：80％以上 C：70％以上 D：70％未満	達成度B 7月学校評価（保護者） HPアクセス経験有 43.5％ この本校教育活動よくわかる回答 85.3％	達成度B 12月学校評価（保護者等） HPアクセス経験有 43.9％ この本校教育活動よくわかる回答 85.0％	学校行事や各学年行事について迅速にホームページの更新を行い、内容の充実を図ってきた。さらに月間行事予定表の掲載も加えるなど、直近の行事予定が把握できるよう配慮している。 今後は本校に進学希望の中学生、保護者等にも閲覧できる学校案内（PDF版）や部活動の活動予定などをタイミングよく更新し、円滑な情報発信が行われるよう努めていきたい。	C、Dの場合、提供される情報の内容等について再検討する。	7月と12月に学校評価（保護者）で調査する。
<重点目標1について>来年度スタートする大学共通試験の影響で、より易しい大学を選ぶ生徒が多く県内大学の志願者が増えると考えていたが、減少する大学もあり高校生の動きがつかみにくい。 <重点目標2について>高校を卒業する生徒が教員の一方的な授業になれていて思考停止している。家庭学習を充実させるためには学校からの適度な提出課題が効果的である。 <重点目標3について>勤務時間は一人ひとりの教員の終業時間を明確にして意識させることが大事であり、終業時間を守った人に対して、別途給与を支給する民間企業もある。 <重点目標4について>遅刻者防止に朝読書を導入してみてもどうか、挨拶を返さず気まずさを感じる位なら挨拶の一方通行もありと思う。これからは校内にある目安箱で生徒の意見を取り上げていってほしい。 今後とも通学時のマナー指導は必要である。部活動では自分自身を律することができる指導があると生徒本人の成長につながる。部活動は弱くともレベルにあった目標を設定して生徒が主体的に取り組めればよい。 <重点目標5について>若者はホームページよりもSNSを活用して情報発信している場合が多いので、教員が生徒の情報発信のやり方を学ぶことがあってもよいのではないかな。										
<重点目標1について>生徒との面談週間を4月と9月に設定して進路指導の充実に向けて取り組む。「総合的な探究の時間」で職場体験や先輩と語る会などに取り組み、生徒の進路支援につなげていく。 <重点目標2について>授業の導入で本時のねらいを明示して生徒に見通しを持たせるとともに、授業中には生徒の発言を取り上げて、主体的・対話的な学びにつながるように授業改善に継続的に取り組む。 <重点目標3について>今後とも管理職が各課教室をこまめに巡回して業務の進捗状況を確認し、帰校時間を声かけすることにより終業時間の意識を高める。会議が放課後だけでなく授業時間内で実施できるような時間を設定する。 <重点目標4について>遅刻防止キャンペーンが効果的なので、適宜、生徒の状況を見て取り組む。 <重点目標5について>本年度、HPにおいて運動部活動の取組状況の更新が少なかったため、来年の新入生が入学する前には全ての部活動の状況がわかるように、情報提供していきたい。										